



今年の伊豆沼のハスは一昨年の大雨の影響で、以前の3割の回復状態です。写真は、当サンクチュアリセンター前の主池です。

Vol.170

令和6年度8月号

ハスの現状と今後

梅雨が明け、いよいよ夏本番を迎える伊豆沼・内沼ですが、今年も昨年度に引き続きハスの生育数が少ない状況です。これは、2022年7月の洪水によって、多くのハスが水没・枯死したためです。

2022年の洪水前までは伊豆沼全体の約60%を覆っていたハス群落ですが、洪水後には約11%まで減少したことが確認されています。

このように洪水によって大きく面積を減らしたハス群落ですが、昨年から今年にかけて、少しずつ回復してきています。今年は伊豆沼北側の植物園を中心に、まとまった数の花を見るようになりました。伊豆沼の北側は水深の浅い水域が広がっており、そのような環境がハスの生育に適しているためと考えられます。昨年度には、伊豆沼全体の20%を覆うまでに回復し、今年もその面積を拡大しています。伊豆沼・内沼のハス群落は、今まさに回復中のようです。



洪水によって枯死したハス（2022年8月4日撮影）



回復したハス群落（2024年7月18日撮影）

伊豆沼・内沼研究報告 18巻発行

ISSN 1881-9559

伊豆沼・内沼研究報告18巻が発行されました。全国各地から魚類や鳥類に関する11本の論文が掲載されています。伊豆沼関係では、昨冬センター周辺を賑わせたシマエナガの越冬記録が出ています。本来、北海道に生息しているシマエナガの、本州における詳細な越冬記録は国内で初めての例です。すべての論文は下記のリンクからご覧いただけます。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/izu/list/-char/ja>

Izunuma-Uchinuma Wetland Researches
伊豆沼・内沼研究報告

Vol. 18.
July 2024



伊豆沼・内沼で観察されたシマエナガ(写真:千葉保幸氏)



公益財団法人宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団
The Miyagi Prefectural Izunuma-Uchinuma Environmental Foundation

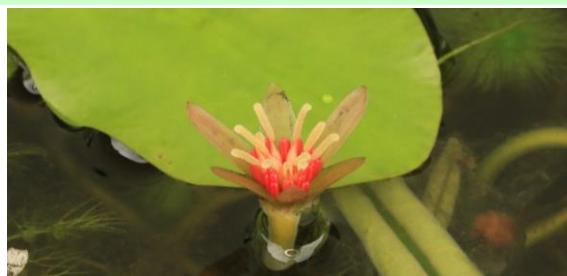
宮城いきいき学園22期生、志波姫小学校2年生による野外活動



「シニアのための学びの場」として宮城県社会福祉協議会が運営している、宮城いきいき学園の22期生の皆さん、水生植物園で保全しているカキツバタの植栽活動に取り組みました。小雨混じりの中、仲良く協力して数十株のカキツバタを植栽していました。また、志波姫小学校2年生は、トンボ採集や魚観察の体験活動に取り組みました。魚観察では、大きなライギョなどに驚いていました。小学生からシニアまでたくさんの方々の自然体験の場としての活用を今後も続けていきたいと思います。

伊豆沼・内沼生き物図鑑 ~ ジュンサイ ~

かつては伊豆沼の名産品だったジュンサイですが、乱獲や植生遷移などの環境変化によって野生個体は消失してしまいました。当財団では、伊豆沼の土の中に眠っていた種子（埋土種子）からジュンサイを発掘し、増殖しています。伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター前の水槽で、発掘したジュンサイの展示も行っています。是非ご来館ください。



愛鳥週間原画コンクール 宮城県入賞作品展示

8月6日はら8月30日まで伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター（鳥館）に入賞作品を展示します。公益財団法人 日本鳥類保護連盟が主催するコンクールで、全国の小・中・高校の児童・生徒を対象とし、制作過程を通じて野生鳥類についての保護思想を高めることを目的としています。

県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンターは、8月13日(火)は、お盆期間中ですが、通常通り開館いたします。



〒989-5504 宮城県栗原市若柳字上畠岡敷味17-2
宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター
指定管理者 (公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団

Tel0228-33-2216 Fax0228-33-2217
ホームページ:<http://izunuma.org/>
E-mail:izunuma@circus.ocn.ne.jp

